

清瀬市の  
わかりやすい決算書

～清瀬市のまちづくり報告書～



令和元年度決算

## 目 次

◇ 決算とは？	1
◇ 歳入の状況	2
◇ 歳出の状況	3
◇ 歳出【目的別】	4
◇ 歳出【性質別】	5
◇ 令和元年度の主要事業	6
◇ 決算の特徴	12
◇ 積立金現在高の状況	13
◇ 財政指標	14
◇ 借金と将来負担	16
◇ 人件費削減の取組	19

### 表紙の写真

令和元年に開催された清瀬ひまわりフェスティバルの会場で撮影されたひまわりです。  
広大な農地に約10万本のひまわりが咲き誇り、およそ10万人の方が来場されました。  
7月の日照不足で開花が心配されましたが、開会式の8月17日には見事な花が一斉に咲きました。

## 決算とは？

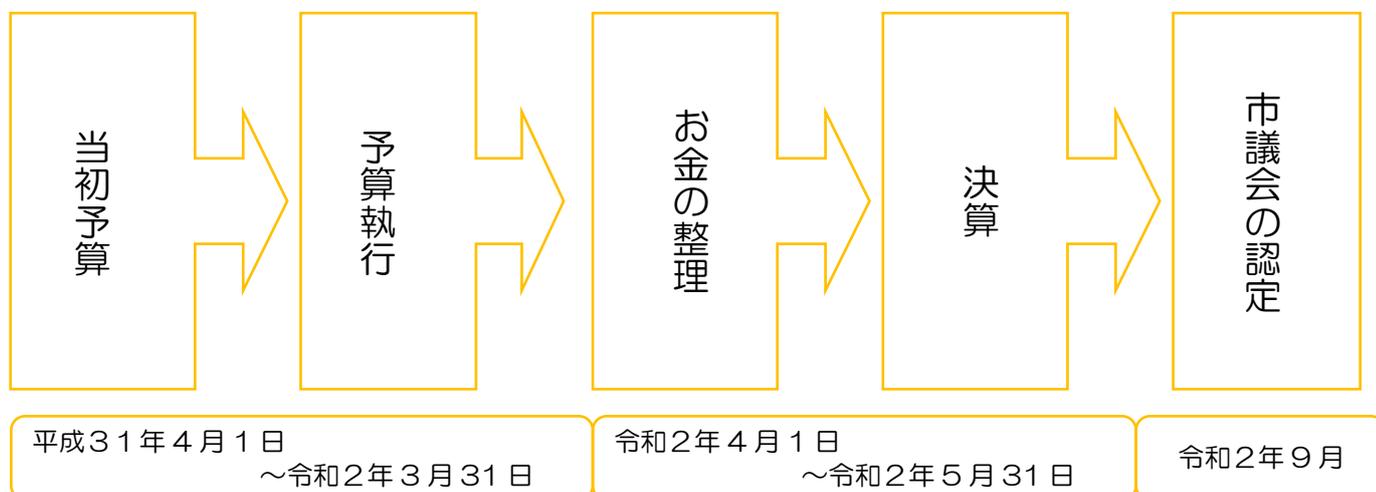


そもそも決算とは何でしょうか？



新しい年度が始まる前に、1年間（4月から翌年3月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような行政サービスを行うのかを計画し、その支出を見積ったものが予算です。それに対して決算とは、1年間にどれだけの収入があって、その収入をどんな使い道でどれだけ支出したのかを示したものです。また、市役所では一般企業や家庭で言う「収入」、「支出」のことをそれぞれ「歳入」、「歳出」と言います。

### ◆決算までの流れ（令和元年度決算認定までの流れ）



## 清瀬市の決算は黒字？赤字？



会社の決算においては黒字か赤字かで業績を判断していますが、市役所はどのようなのでしょうか？



市役所において黒字または赤字は、「**実質収支**」というものから判断します。

「実質収支」＝歳入総額－歳出総額－次の年に使うことが決められている金額

実質収支がプラスなら黒字、マイナスなら赤字となります。

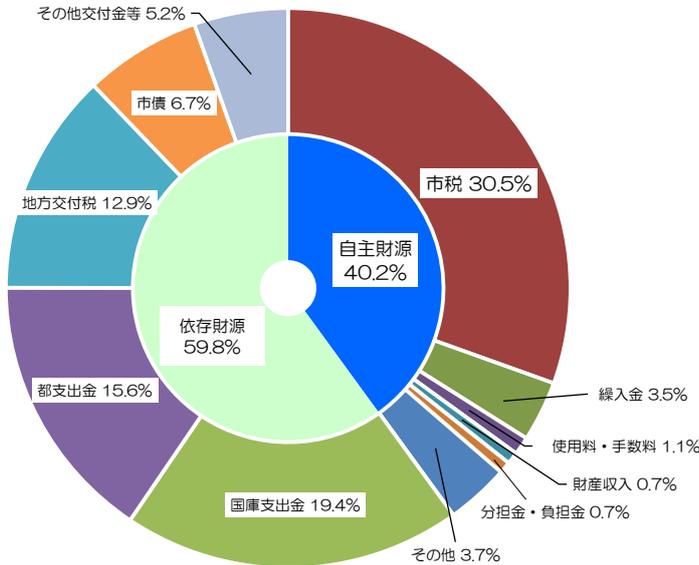
清瀬市の令和元年度決算においては、歳入は317億1,357万円に対して、歳出は309億7,987万円でした。令和元年度は、次の年（令和2年度）に使うことが決められている1,278万円を差し引いた7億2,092万円が実質収支となります。実質収支がプラスであることから、清瀬市の令和元年度決算は7億2,092万円の黒字ということになります。

## 歳入の状況



清瀬市が毎年使うお金はどのように  
賄っているのでしょうか？

### 【歳入の構成比】



市役所の歳入は市税や使用料などの市が自主的に徴収できるお金である「**自主財源**」と国や都から交付されるお金や金融機関等からの借入れをする市債などの「**依存財源**」に分類することができます。清瀬市は自主財源よりも依存財源の方が多い市です。特に、市税が歳入額に占める割合は30.5%で多摩26市平均の43.9%を下回っており、市税収入が少ない状況です。自主財源の比率が高ければ、自由に使えるお金が多く、財政運営上望ましいとされています。自主財源の強化が清瀬市の大きな課題です。

### ◆一般会計歳入決算

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
<b>自主財源</b>	市が自主的に決定し、徴収できる財源	126億9,955万円	3億350万円
市税	市民の皆さんから納めていただく税金	96億7,722万円	8,220万円
個人市民税	均等割と所得割から構成	44億8,552万円	2,014万円
法人市民税	均等割と法人税割から構成	3億5,223万円	▲3,486万円
固定資産税	土地、家屋、償却資産に課される税金	36億7,753万円	7,559万円
軽自動車税	軽自動車の所有者が納める税金	7,272万円	336万円
市たばこ税	市内のたばこ販売小売店が納める税金	3億6,196万円	725万円
都市計画税	都市計画事業等に使われる目的税	7億2,726万円	1,072万円
分担金・負担金	事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者にご負担いただくお金	2億1,377万円	▲6,555万円
使用料・手数料	市営住宅使用料やごみ処理手数料など	3億2,900万円	▲633万円
繰入金	市の基金（貯金）からの取崩しなど	11億750万円	2億9,561万円
財産収入	市有の土地などの売却収入	2億1,832万円	2億979万円
その他	寄附金や前年度からの繰越金など	11億5,374万円	▲2億1,222万円
<b>依存財源</b>	国や都から交付される財源	190億1,402万円	3億8,511万円
国・都支出金	市の行政サービスを行うために、国や都から交付されるお金	110億9,401万円	3億2,125万円
地方交付税	国から財政力不足の自治体へ交付されるお金	40億8,035万円	1億3,108万円
市債	国や金融機関等からの借入金	21億2,900万円	▲9,400万円
その他交付金等	国や都が集めた税金を各自治体へ再配分する譲与税や地方消費税交付金など	17億1,066万円	2,678万円
合計		317億1,357万円	6億8,861万円

## 歳出の状況



清瀬市は令和元年度に何のために、どのようにお金を使ったのでしょうか？

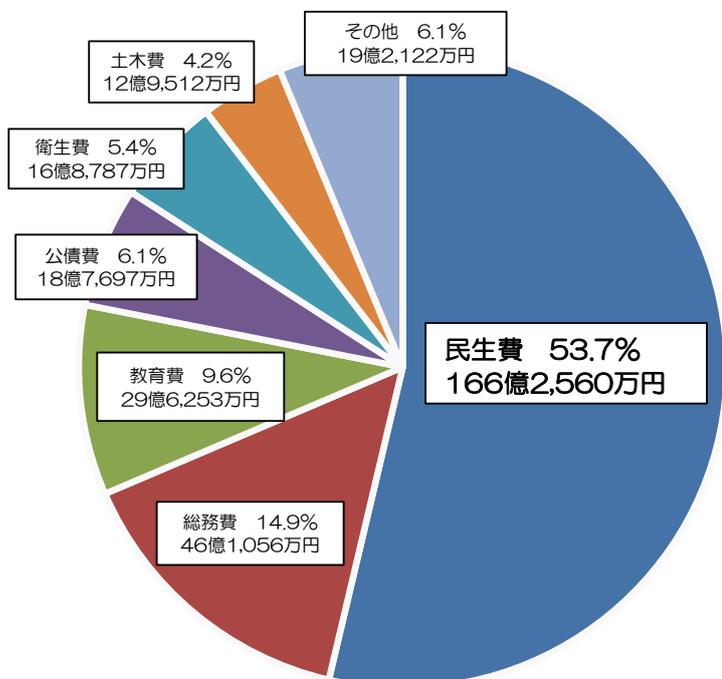


清瀬市の令和元年度のお金の使い道を知るためには、2種類の確認方法があります。

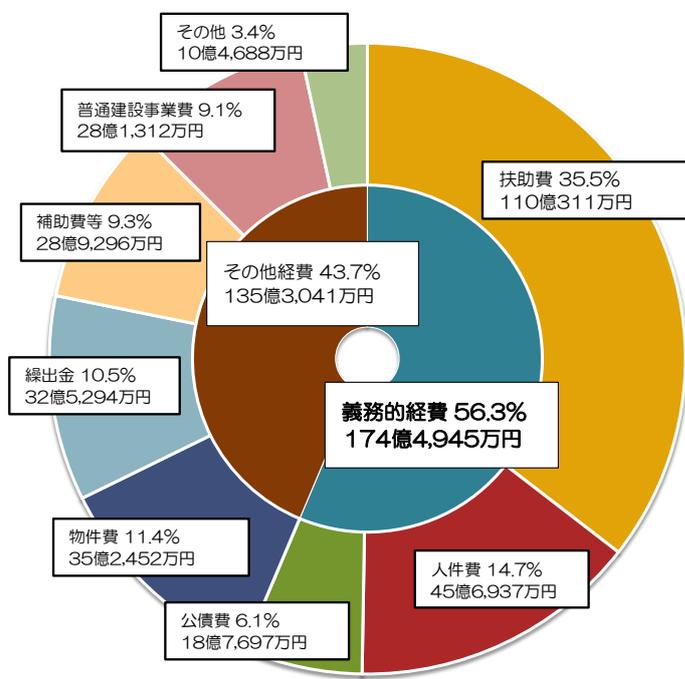
- **目的別経費**：何のためにお金を使ったか。  
例えば・・・子育て支援のために【民生費】、けやき通りの整備のため【土木費】
- **性質別経費**：どういう用途にお金を使ったか。  
例えば・・・児童手当の給付に【扶助費】、けやき通りの枝の剪定作業に【物件費】

清瀬市の歳出は、目的別経費では、高齢化などにより民生費が全体の 53.7%と決算額の半分以上を占めているのが特徴となっています。性質別経費では、毎年必ず支出しなければならない義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が 56.3%を占めています。義務的経費は、人件費が減少しているものの、私立保育園運営費や障害者自立支援給付費などの扶助費が増加したことで、歳出全体に占める割合が大きくなっています。

【目的別歳出の構成比】



【性質別歳出の構成比】



4 ページと 5 ページで目的別経費、性質別経費がどのようなものか、またそれぞれいくら使ったのかみてみましょう。

## 歳出【目的別】

### ◆一般会計決算（目的別経費）

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
議会費	議員の報酬や議会運営などにかかる経費	2億9,103万円	▲415万円
総務費	庁舎などの管理、市税の賦課徴収、戸籍事務など市役所の一般的な仕事にかかる経費 ★新庁舎建設事業（第1期建設工事）を実施しました。	46億1,056万円	8億1,301万円
民生費	障害者福祉や生活保護などの社会保障、また児童手当などにかかる経費 ★生活困窮者自立支援事業を拡充し、新たに健康管理支援等を実施しました。	166億2,560万円	1億5,862万円
衛生費	予防接種やがん検診などの健康推進、母子保健、また公害防止やごみ収集などにかかる経費 ★清瀬市版ネウボラ事業「スマイルベビーきよせ」を実施しました。	16億8,787万円	6,547万円
労働費	労働者環境の向上や就労支援などにかかる経費 ★清瀬駅北口のクレアビル4階で「ふるさとハローワーク」を開設し求人情報を発信しています。	598万円	31万円
農林業費	農林業の振興にかかる経費 ★12回目の開催となる「ひまわりフェスティバル」を開催しました。	6,359万円	▲2,303万円
商工費	商工業の振興にかかる経費 ★振り込め詐欺対策として「自動通話録音機」の貸し出しを行いました。	1億3,945万円	1,264万円
土木費	道路や公園、市営住宅の管理などにかかる経費 ★市民の安全で快適な生活を確保するため、市道0117号線などの道路整備や歩道拡幅を行いました。	12億9,512万円	3億1,006万円
消防費	火災、地震等の災害から市民を守るための経費 ★女性消防団員の導入やマンホールトイレの設置工事を実施しました。	9億9,543万円	▲5,082万円
教育費	小中学校の運営費、図書館や博物館などの生涯学習、文化振興などにかかる経費 ★清明小学校の大規模改造事業を実施しました。	29億6,253万円	▲3億4,649万円
公債費	事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	18億7,697万円	2,39万円
諸支出金	他の項目に含まれない経費をまとめたもの	4億2,574万円	▲1億3,162万円
予備費	緊急に支出を必要とする場合に備えて用意しているお金	0万円	0万円
合計		309億7,987万円	8億639万円

★マークは令和元年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

## 歳出【性質別】

### ◆一般会計決算（性質別経費）

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
義務的経費	人件費 市職員の給料や市議会議員の報酬・社会保険料などにかかる経費 ★職員数・人件費の推移については 19 ページで詳しく説明しています。	45 億 6,937 万円	▲4,738 万円
	うち職員給与等 人件費のうち市職員にかかる経費	26 億 2,620 万円	▲2,242 万円
	扶助費 福祉などの生活支援及び児童手当などの給付にかかる経費 ★生活保護費や障害者自立支援給付費等の社会保障費が大きな割合を占めています。	110 億 311 万円	1 億 994 万円
	公債費 事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	18 億 7,697 万円	239 万円
	小計 毎年必ず支出しなければならない経費	174 億 4,945 万円	6,495 万円
その他経費	物件費 物品の購入、光熱水費、委託料などにかかる消費的経費 ★小学校給食の委託や参議院議員選挙を行いました。	35 億 2,452 万円	2 億 5,307 万円
	維持補修費 施設の維持管理にかかる経費 ★市内各所の道路補修などを行いました。	2,517 万円	▲489 万円
	補助費等 各種団体への補助金や一部事務組合の負担金などにかかる経費 ★幼児教育・保育無償化に伴う私立幼稚園等助成事業の補助金が増加しました。	28 億 9,296 万円	7,315 万円
	普通建設事業費 道路や公園、小中学校校舎など、社会資本の形成にかかる経費 ★新庁舎建設事業や市内各所の道路整備や清明小学校校舎の大規模改造事業などを行いました。	28 億 1,312 万円	4 億 1,812 万円
	災害復旧費 大雨、暴風、地震などの災害により被災した施設等を復旧するための経費	1,505 万円	119 万円
	積立金 各種基金（貯金）への積立金 ★市庁舎の建替えや市内公共施設の整備に備え、公共施設整備基金に 3 億 3,299 万円を積立しました。13 ページで詳しく説明しています。	9 億 6,779 万円	▲5,200 万円
	貸付金 奨学資金の貸付など、市が一時的に貸し出す経費	1,733 万円	945 万円
	投資及び出資金 下水道事業会計へ出資するための経費	2,154 万円	▲3,814
	繰出金 特別会計の収入を補うための経費 ★医療費の増加や介護サービス利用の増加により、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計などへ一般会計からお金を補填しています。	32 億 5,294 万円	8,149 万円
合計		309 億 7,987 万円	8 億 639 万円

★マークは令和元年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

## 令和元年度の主要事業

### ① 安全でうるおいのある暮らしができるまち

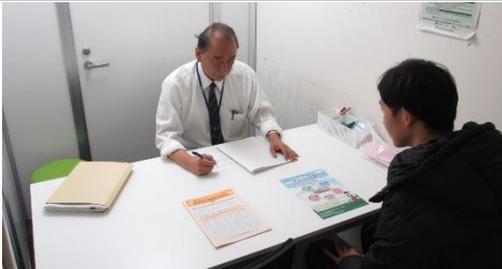
消費者保護対策事業の実施	
産業振興課 ☎042-495-6211	
実施期間：通年	事業費 243万円
	自動通話録音機の購入 243万円
	財源内訳
	都費 243万円
決算説明書掲載ページ	
自動通話録音機	【歳入】55ページ 【歳出】227ページ
<p>高齢者の振り込め詐欺被害が市内で多い現状を受け、65歳以上の方がお住いの世帯を対象に、自動通話録音機の無料貸し出しを400台実施し、振り込め詐欺被害の防止に取り組みました。</p>	

地震解錠ボックスの設置	
防災防犯課 ☎042-497-1847	
工事完了日：R1.12.11	事業費 297万円
	地震解錠ボックス購入等 297万円
	財源内訳
	一般等寄附金 297万円
決算説明書掲載ページ	
地震解錠ボックス	【歳入】61ページ 【歳出】253、255ページ
<p>震災時に避難所の早期開設を目的に、市内小・中学校14校に地震解錠ボックスを設置し、震度5強以上の揺れを感知した場合は、ボックスの扉が解錠され、中から鍵等が迅速に取り出せるようになりました。</p>	

第二中学校にマンホールトイレを設置	
防災防犯課 ☎042-497-1847	
工事完了日：R2.3.16	事業費 253万円
	設置工事費 253万円
	財源内訳
	都費 240万円 一般財源 13万円
決算説明書掲載ページ	
マンホールトイレ	【歳入】51ページ 【歳出】253、255ページ
<p>市内小・中学校は、災害時における避難所として指定されており、避難所のトイレ不足や断水によりトイレが使用できなくなった場合に備え、第二中学校にマンホールトイレを5基設置しました。</p>	

コミュニティプラザテニスコート人工芝改修工事を実施	
生涯学習スポーツ課 ☎042-495-7001	
工事完了日：R1.8.21	事業費 1,944万円
	人工芝改修工事 1,944万円
	財源内訳
	都費 420万円 公共施設整備基金 1,500万円 一般財源 24万円
	決算説明書掲載ページ
コミュニティプラザテニスコート	【歳入】 51、63ページ 【歳出】 295、297ページ
<p>コミュニティプラザひまわり内にあるテニスコートが、経年劣化によりコート（人工芝）が一部破傷していたため、人工芝の張替工事を行いました。また、テニスコートの利用ニーズが高いことから、より多くの方が利用できるよう1コート分を増設しました。</p>	

## ② 健幸でともに支え合うまち

生活困窮者自立支援事業を拡充	
生活福祉課 ☎042-497-2058	
実施期間：通年	事業費 4,173万円
	運営管理委託 4,060万円 その他諸費 113万円
	財源内訳
	国費 2,175万円 その他収入 67万円 一般財源 1,931万円
	決算説明書掲載ページ
自立相談支援機関での面接相談(イメージ)	【歳入】 41、45、65ページ 【歳出】 143ページ
<p>様々な課題を抱える生活困窮者を支援し、社会的・経済的自立を目指すため、平成26年度から自立相談支援事業等を実施しています。令和元年度は、新たに家計改善支援事業の対象者の拡大及び金銭管理支援事業を実施し、総合的な生活困窮者支援体制の整備及び拡充を図りました。</p>	

がん検診事業	
健康推進課 ☎042-497-2075	
実施期間：R1.7~R1.12	事業費 3,198万円
	がん検診委託費 3,109万円 その他諸経費 89万円
	財源内訳
	一般財源 3,198万円
	決算説明書掲載ページ
セット検診及び肺がん検診会場の複十字病院	【歳出】 191ページ
<p>日本人の死亡原因で最も多いがんの予防を図るため、胃・子宮・肺・大腸・前立腺・乳がんのがん検診事業を実施し、自己負担額免除の対象を60歳以上から55歳以上に拡充して実施しました。</p>	

健幸ポイント事業を実施									
健康推進課 ☎042-497-2076									
実施期間：R1.10～R2.3	事業費 1,695万円								
	<table border="1"> <tr> <td>運営等委託</td> <td>1,238万円</td> </tr> <tr> <td>地域商品券等</td> <td>300万円</td> </tr> <tr> <td>歩数計等購入</td> <td>56万円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>101万円</td> </tr> </table>	運営等委託	1,238万円	地域商品券等	300万円	歩数計等購入	56万円	その他経費	101万円
	運営等委託	1,238万円							
	地域商品券等	300万円							
	歩数計等購入	56万円							
その他経費	101万円								
財源内訳									
<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>803万円</td> </tr> <tr> <td>事業参加費等</td> <td>151万円</td> </tr> <tr> <td>まちづくり応援基金繰入金</td> <td>100万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>641万円</td> </tr> </table>	都費	803万円	事業参加費等	151万円	まちづくり応援基金繰入金	100万円	一般財源	641万円	
都費	803万円								
事業参加費等	151万円								
まちづくり応援基金繰入金	100万円								
一般財源	641万円								
決算説明書掲載ページ									
健幸ポイントイメージキャラクター「ウィンピー」	【歳入】51、63、69ページ 【歳出】199ページ								
<p>昨年に引き続き、健康増進のための取り組みに応じて付与されるポイントを地域商品券と抽選で交換できる「健幸ポイント事業」を実施しました。令和元年度は市内在住20歳以上1,000人を対象とし、活動量計に加え、スマートフォンアプリでの対応に拡充して実施しました。</p>									

プレミアム付商品券事業を実施									
産業振興課 ☎042-497-2052									
事業期間：R1.7.1～R2.3.30	事業費 5,862万円								
	<table border="1"> <tr> <td>運営管理業務</td> <td>3,039万円</td> </tr> <tr> <td>対象者抽出業務</td> <td>979万円</td> </tr> <tr> <td>プレミアム分補助金</td> <td>1,686万円</td> </tr> <tr> <td>その他諸費</td> <td>158万円</td> </tr> </table>	運営管理業務	3,039万円	対象者抽出業務	979万円	プレミアム分補助金	1,686万円	その他諸費	158万円
	運営管理業務	3,039万円							
	対象者抽出業務	979万円							
	プレミアム分補助金	1,686万円							
その他諸費	158万円								
財源内訳									
国費	5,862万円								
決算説明書掲載ページ									
プレミアム付商品券販売の様子	【歳入】47ページ 【歳出】225ページ								
<p>令和元年10月の消費税率の改正により、低所得者及び子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、市内の消費を喚起・下支えすることを目的として2万円で2万5千円分の買い物ができるプレミアム付商品券の販売を実施しました。</p>									

### ③ 子どもたちを健やかに育むまち

英語指導助手（ALT）による授業の拡充						
指導課 ☎042-497-2554						
実施期間：R1.5.9～R2.3.15	事業費 854万円					
	英語指導助手（ALT）委託 854万円					
	財源内訳					
	<table border="1"> <tr> <td>教育基金</td> <td>400万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>454万円</td> </tr> </table>	教育基金	400万円	一般財源	454万円	
	教育基金	400万円				
一般財源	454万円					
決算説明書掲載ページ						
英語の授業風景	【歳入】63ページ 【歳出】267ページ					
<p>令和2年4月より小学校での新学習指導要領の全面实施により、小学校3・4年生で外国語活動が導入されることから、これまで小学校5・6年生及び中学校で実施してきた英語指導助手（ALT）による授業を、新たに小学校3・4年生にも実施しました。</p>						

体験型英語学習活動事業の実施	
指導課 ☎042-497-2554	
実施期間：R1.7.30~R1.7.31	事業費 119万円
	体験型英語学習活動委託料 117万円 その他諸経費 2万円
	財源内訳
	都費 59万円 一般財源 60万円
	決算説明書掲載ページ
体験型英語学習活動事業の様子	【歳入】57ページ 【歳出】269ページ
小・中学生の英語力向上を図るため、江東区青海に開設された‘TOKYO GLOBAL GATEWAY’で夏休み期間中の2日間、英語だけを使った外国人とのコミュニケーションの体験事業を実施し、市内小・中学生119人が参加しました。	

子育てクーポン事業を実施	
子ども家庭支援センター ☎042-495-7701	
実施期間：クーポン券は通年、商品券はR2.2.29まで	事業費 2,154万円
	商品券発行等委託料 1,288万円 クーポン券補助 843万円 その他諸経費 23万円
	財源内訳
	都費 425万円 まちづくり応援基金 100万円 一般等寄附金 2万円 一般財源 1,627万円
	決算説明書掲載ページ
子育て・キラリ・クーポン券	【歳入】53、61、63ページ 【歳出】185ページ
昨年に引き続き、「子育てが楽しいまち」を目指し、市内の子育て世帯を対象に、市内の子育て支援サービスで利用できるクーポン券（6,000円）と市内取扱店で利用できる商品券（4,000円）を発行しました。	

小学校校舎大規模改造事業を実施（清明小学校）	
教育総務課 ☎042-497-2538	
工事完了日：R1.11.15	事業費 5億51万円
	校舎大規模改修工事 4億9,555万円 工事監理業務 496万円
	財源内訳
	国費 9,123万円 都費 2,783万円 公共施設整備基金 8,000万円 地方債 3億円 その他収入等 145万円
	決算説明書掲載ページ
大規模改修工事を完了した清明小学校校舎	【歳入】45、51、55、63、67、73ページ 【歳出】283ページ
市内の小・中学校校舎は、建築後40年以上経過した建物が多く、計画的に大規模改修に取り組んでいます。令和元年度は清明小学校校舎の改修工事を実施しました。また、改修工事と同時に太陽光発電設備を設置し、教育環境の整備に取り組みました。	

④ 豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち

ひまわりフェスティバルを開催	
産業振興課 ☎042-497-2052	
事業期間：R1.8.17～R1.8.24	事業費 570万円
	ひまわりフェスティバルへの助成 570万円
	財源内訳
	まちづくり応援寄附金 200万円 指定管理者納付金（駐車場使用料） 13万円 一般財源 357万円
	決算説明書掲載ページ
第12回清瀬ひまわりフェスティバル会場にて	【歳入】63、69ページ 【歳出】223ページ
<p>都内最大級、24,000㎡の農地に10万人のひまわりが咲き誇る「清瀬ひまわりフェスティバル」を開催しました。今年で12回目の開催となり、各種マスコミに取り上げられたことや他イベントとの連携事業を実施したこともあり、期間中約10万人の方が来場しました。</p>	
市道O117号線（東京病院東側）歩道拡幅工事を実施	
道路交通課 ☎042-497-2095	
工事完了日：R2.3.13	事業費 4,400万円
	歩道拡幅工事 4,400万円
	財源内訳
	都費 1,970万円 地方債 2,400万円 一般財源 30万円
	決算説明書掲載ページ
拡幅後の歩道	【歳入】51、55、73ページ 【歳出】235ページ
<p>東京病院の東側に位置する市道O117号線において、周辺住民や東京病院への利用者の安全確保のために、歩道を2.5mに拡幅する工事を実施しました。拡幅により車いすの往来も可能となりました。</p>	
「（仮称）花のある公園」基本計画の策定	
水と緑の環境課 ☎042-497-2098	
実施期間：通年	事業費 300万円
	（仮称）花のある公園検討支援業務 300万円
	財源内訳
	都費 149万円 一般財源 151万円
	決算説明書掲載ページ
第1回ワークショップ（コスモスの種まき）	【歳入】51ページ 【歳出】247ページ
<p>ワークショップや聞き取り調査を通じて「（仮称）花のある公園」の活用や管理、運営方法に関する意見をまとめ、レイアウトや運営方法などを示す基本計画を策定しました。市民ワークショップは計5回実施し、延べ約170名の方が参加しました。</p>	

### ⑤ 都市格が高いまち

清瀬市公共施設再編計画（地域レベル編）策定に向けた取り組み									
企画課 ☎042-497-1802									
実施期間：通年	事業費 580万円								
	公共施設再編計画（地域レベル編）作成委託 580万円								
	財源内訳								
	<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>290万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>290万円</td> </tr> </table>	都費	290万円	一般財源	290万円				
都費	290万円								
一般財源	290万円								
決算説明書掲載ページ									
清瀬市公共施設再編計画（地域レベル編）策定に向けた取り組み	【歳入】51ページ 【歳出】101ページ								
<p>地域レベルの公共施設再編計画策定に向けて、市内の公共施設利用者を対象とした「地域レベルの公共施設に関する利用者アンケート」と、住民基本台帳から無作為に抽出した市民を対象とした「身近な公共施設の再編に関する市民ニーズ調査」を実施し、公共施設の利用実態やニーズの把握を行いました。</p>									
第1期新庁舎建設事業を実施（建設工事1年目）									
新庁舎建設室 ☎042-497-1805									
新庁舎開庁（予定）：R3.5	事業費 12億5,460万円								
	<table border="1"> <tr> <td>建設工事</td> <td>12億2,301万円</td> </tr> <tr> <td>工事監理業務</td> <td>2,200万円</td> </tr> <tr> <td>工事管理支援業務</td> <td>900万円</td> </tr> <tr> <td>その他諸経費</td> <td>59万円</td> </tr> </table>	建設工事	12億2,301万円	工事監理業務	2,200万円	工事管理支援業務	900万円	その他諸経費	59万円
	建設工事	12億2,301万円							
	工事監理業務	2,200万円							
工事管理支援業務	900万円								
その他諸経費	59万円								
財源内訳									
<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>3億3,049万円</td> </tr> <tr> <td>公共施設整備基金</td> <td>3億1,000万円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>6億1,100万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>311万円</td> </tr> </table>	都費	3億3,049万円	公共施設整備基金	3億1,000万円	地方債	6億1,100万円	一般財源	311万円	
都費	3億3,049万円								
公共施設整備基金	3億1,000万円								
地方債	6億1,100万円								
一般財源	311万円								
決算説明書掲載ページ									
躯体工事状況	【歳入】51、63、73ページ 【歳出】105ページ								
<p>令和3年5月にオープンする新庁舎の建設に向けて、令和元年度は第1期工事として、既存駐車場の解体工事後に、地盤改良工事や免震装置の設置工事など、建物の基礎部分にあたる躯体工事を実施しました。</p>									
アミュービル空調設備改修工事を実施									
生涯学習スポーツ課 ☎042-495-7001									
工事完了日：R1.7.30	事業費 1億1,029万円								
	<table border="1"> <tr> <td>改修工事</td> <td>1億800万円</td> </tr> <tr> <td>工事管理業務</td> <td>229万円</td> </tr> </table>	改修工事	1億800万円	工事管理業務	229万円				
	改修工事	1億800万円							
	工事管理業務	229万円							
財源内訳									
<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>880万円</td> </tr> <tr> <td>公共施設整備基金</td> <td>2,000万円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>8,100万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>49万円</td> </tr> </table>	都費	880万円	公共施設整備基金	2,000万円	地方債	8,100万円	一般財源	49万円	
都費	880万円								
公共施設整備基金	2,000万円								
地方債	8,100万円								
一般財源	49万円								
決算説明書掲載ページ									
アミュービル内空調設備機器	【歳入】51、63、73ページ 【歳出】311、313ページ								
<p>アミュービルの空調設備は竣工20年以上経過していることから、老朽化による機器の不具合が生じていたため、市民の生涯学習活動の環境改善に向けて、空調設備屋外・屋内機器や全熱交換機などの更新工事を実施しました。</p>									

## 決算の特徴

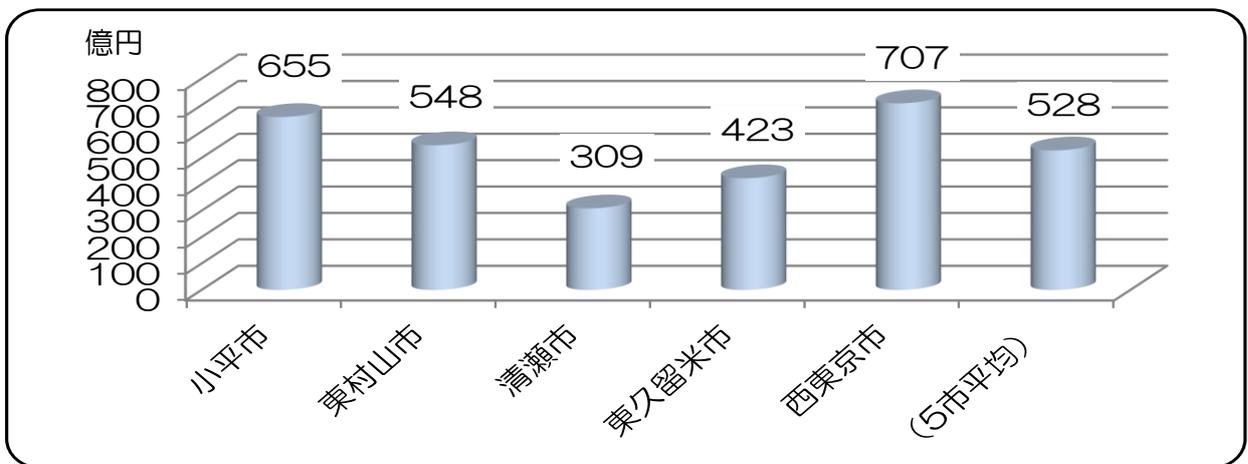


清瀬市の決算額は他の市と比べてどれくらいの規模なのでしょうか？



1～5 ページで見たとおり、清瀬市の令和元年度歳出決算額は 309 億 7,987 万円でした。この決算額は、市民の皆さんにとっては大きすぎる金額のため、イメージしづらいかもしれません。そこで、309 億 7,987 万円という決算額が、市としてどれほどの規模なのか、近隣 5 市と比べてみましょう。

### 【近隣 5 市との比較：決算額（歳出）】

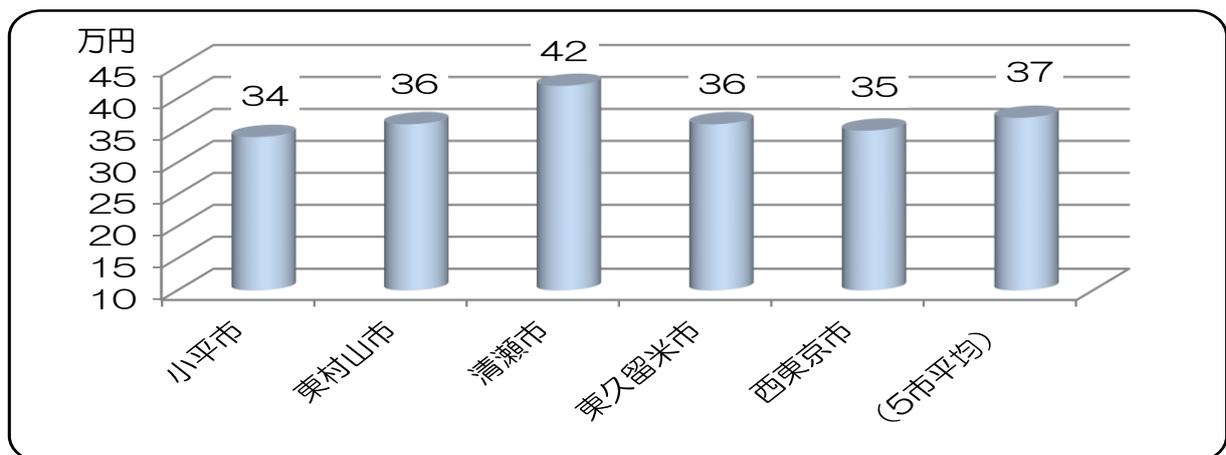


決算額（歳出）を比較すると、清瀬市の財政規模は近隣 5 市で最も低い水準です。

これは、他の市に比べて人口が少ないことと、面積が小さいためです。

では、清瀬市で行っている行政サービスの水準は、近隣市と比べて低いのでしょうか？

### 【近隣 5 市との比較：市民 1 人あたり決算額】



決算額（歳出）をそれぞれの人口（令和 2 年 1 月 1 日現在）で割ると、市民 1 人あたりに平均してどれだけ行政サービスを行ったかが分かります。

令和元年度については、清瀬市は市民 1 人あたり 42 万円の行政サービスを提供しており、近隣市のなかでも高い水準です。

## 積立金現在高の状況

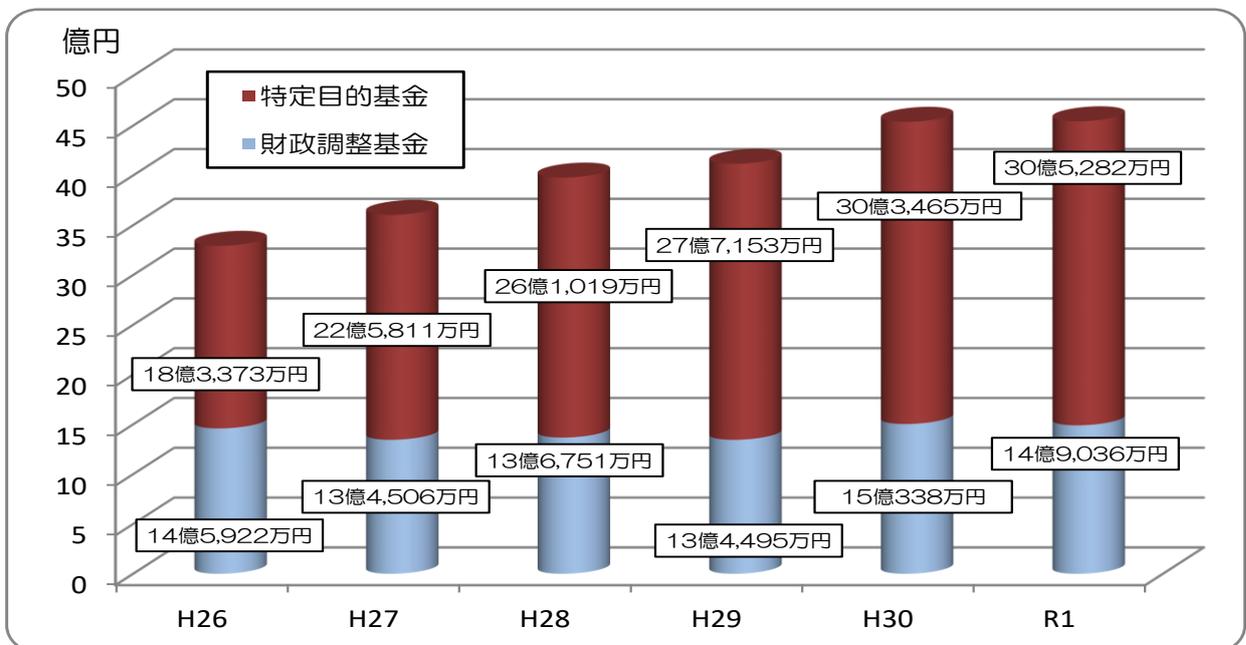


毎年たくさんのお金を使って道路や学校の整備、様々な行政サービスを提供していますが、清瀬市には貯金はあるのでしょうか？



市役所では、一般家庭における貯金にあたる「基金」を持っています。基金には、決算が黒字だったときに残ったお金を積み立てておき、お金が足りなくなったときに取り崩して使うための「**財政調整基金**」と、今後行う事業に使うために計画的に積み立てておく「**特定目的基金**」があります。特定目的基金には、庁舎や公共施設の整備に使うための「**公共施設整備基金**」や市内の雑木林や公園などの整備に使うための「**緑地保全基金**」、まちづくり応援寄附として頂いたお金を一時的に積み立てておく「**まちづくり応援基金**」などがあります。

### 【基金残高の推移】



※特定目的基金は減債基金を含んだ数値です。

上のグラフのうち、各年度の下側が財政調整基金です。残高の推移をみると、行財政改革の推進により捻出された財源などを積み立てたことにより、平成26年度以降は13億円から15億円台を維持しています。

また、特定目的基金については、新庁舎建設や市内公共施設の整備、南口児童館建設事業などに備えるため、公共施設整備基金に令和元年度は3億3,299万円を積み立てたことから、平成30年度に引き続き30億円を超える額となりました。

今後は、前述の通り公共施設の整備のほか、さらには年々膨らむ社会保障関係経費などの経常経費（市が任意に削減できない義務的経費（人件費・扶助費・公債費）などの毎年決まって支出されるお金）の増加が見込まれています。このようなことから、財政調整基金及び特定目的基金への積み立てを計画的に行う必要があります。

## 財政指標



清瀬市の財政状況は良いのでしょうか？それとも悪いのでしょうか？



清瀬市の財政状況を知るためには、様々な財政指標をみることで把握することが出来ます。そのなかでも財政状況を分析するのによく使われる「**経常収支比率**」と「**財政力指数**」から清瀬市の財政状況をみて行きましょう。

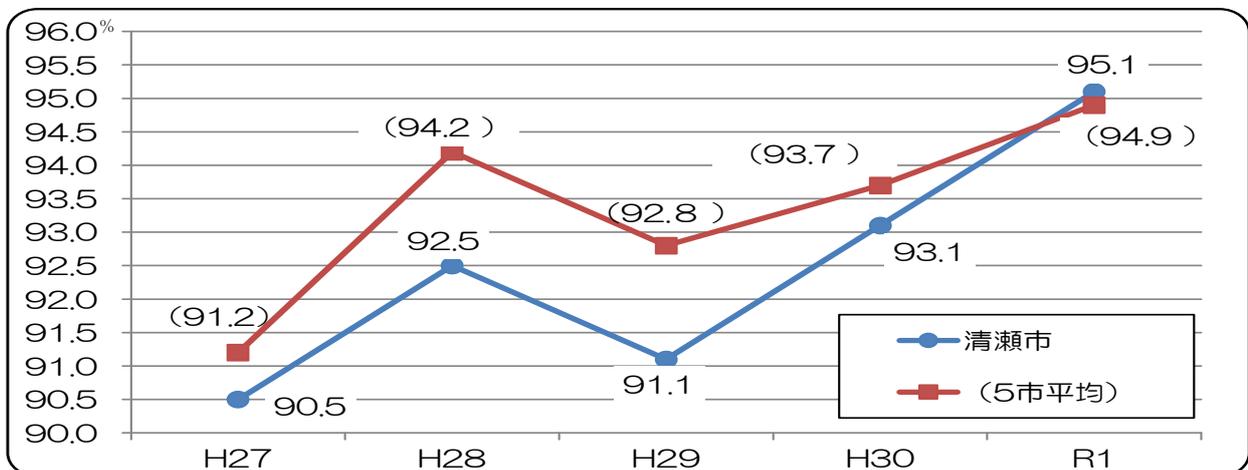
### ① 経常収支比率

経常収支比率は、市税など毎年決まって収入されるお金が扶助費や公債費など毎年必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示しています。つまり、「自由に使えるお金が、どれだけ使い道を縛られているか」を意味します。一般的には 70~80%が適正水準とされています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費に使った一般財源}^{\ast}}{\text{毎年収入が見込める一般財源}} \times 100$$

※ { 一般財源：市税や地方交付税など、市の判断でいかなる経費にも使うことができるお金  
特定財源：国・都支出金や建設地方債など、特定の経費に使うことが義務付けられているお金

### 【近隣 5 市との比較：経常収支比率の推移】



清瀬市の経常収支比率は、令和元年度決算で 95.1%と前年度よりも 2.0 ポイント悪化し、近隣 5 市平均との比較と比較してわずかに高い水準となっています。

令和元年度の 95.1%という経常収支比率を家計に例えると、30 万円の給料のうち、95.1%である 28 万 5,300 円を食費や家賃などの生活費に使っていることになり、自由に使えるのは残りの 1 万 4,700 円しかありません。

しかしながら、これは限りある収入の中で高い水準の生活を維持している結果でもあります。生活費を削減すれば家計は表面上改善するものの、生活水準は低下しかねません。自治体においても、経常経費の削減は行政サービスの低下につながる可能性がありますので、慎重な判断が求められています。

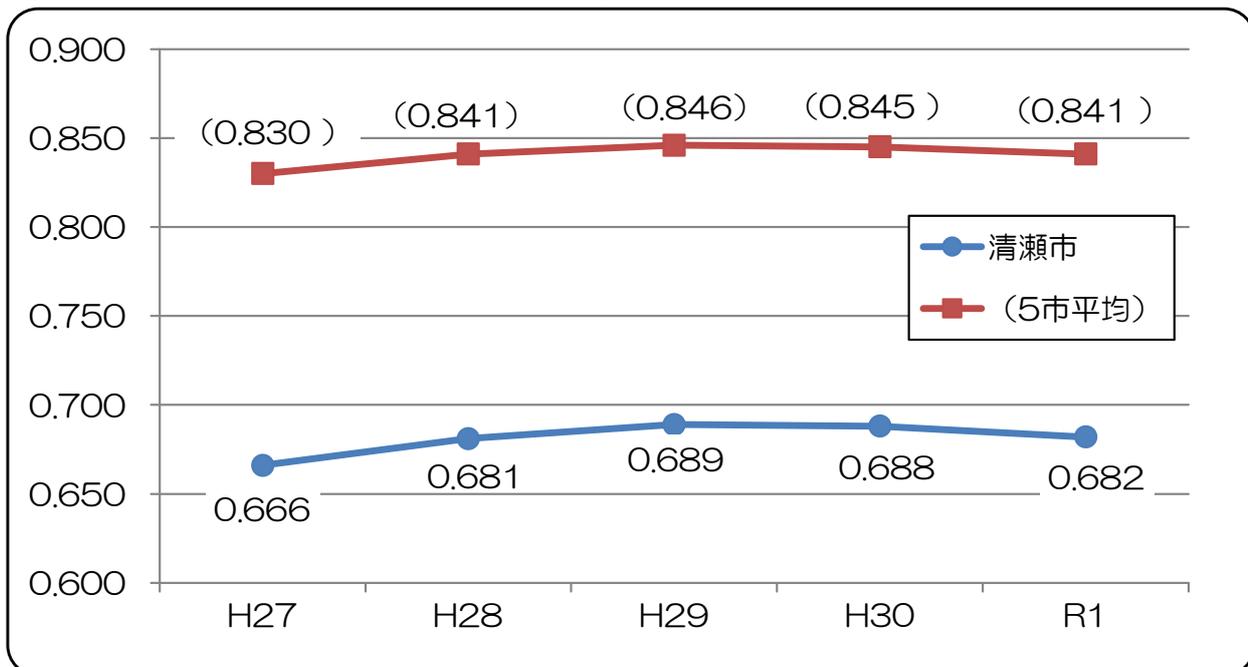
## ② 財政力指数

清瀬市が行っている行政サービスにかかるお金の一部は、国や都からの補助金で賄っていますが、清瀬市も市税等の一般財源で負担する必要があります。この清瀬市が負担すべき一般財源のうち、どれくらい独自で調達できているのかを示すのが財政力指数です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額（市が独自で調達できる一般財源）}}{\text{基準財政需要額（市が負担すべき一般財源）}}$$

例えば、市が独自で調達できる一般財源が70億円で、市が負担すべき一般財源が100億円の場合、財政力指数は0.7となります。財政力指数が1を割っているため、「財源が不足している団体」とされ、国から地方交付税（普通交付税）が交付されます。財政力指数が1を超えると、「財源が豊かな団体」とされ、普通交付税を受け取ることはできません。

### 【近隣5市との比較：財政力指数の推移】



※各年度の数値は、その年度を含む3年間の平均値です。

清瀬市の財政力指数は0.6程度で、国からの普通交付税により一般財源の不足分を補っています。特に近年は、高齢化などによる社会保障関係経費の増加が影響し、普通交付税に頼らざるを得ない傾向が強まっています。

### 普通交付税額の推移

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
普通交付税額	37億1,690万円	36億1,747万円	37億4,439万円	38億1,222万円	39億2,866万円

ここまで経常収支比率、財政力指数をみてきましたが、清瀬市の指標はいずれも改善が必要な数値となっています。これからわかるとおり、決して清瀬市の財政状況は良いとは言えません。今後も、指標の改善を目指して行財政改革の推進など、より一層の努力をしていかなければなりません。

## 借金と将来負担



学校や道路などの整備にはたくさんのお金がかかりそうですが、市税や国、都からの補助金だけで足りるのでしょうか？

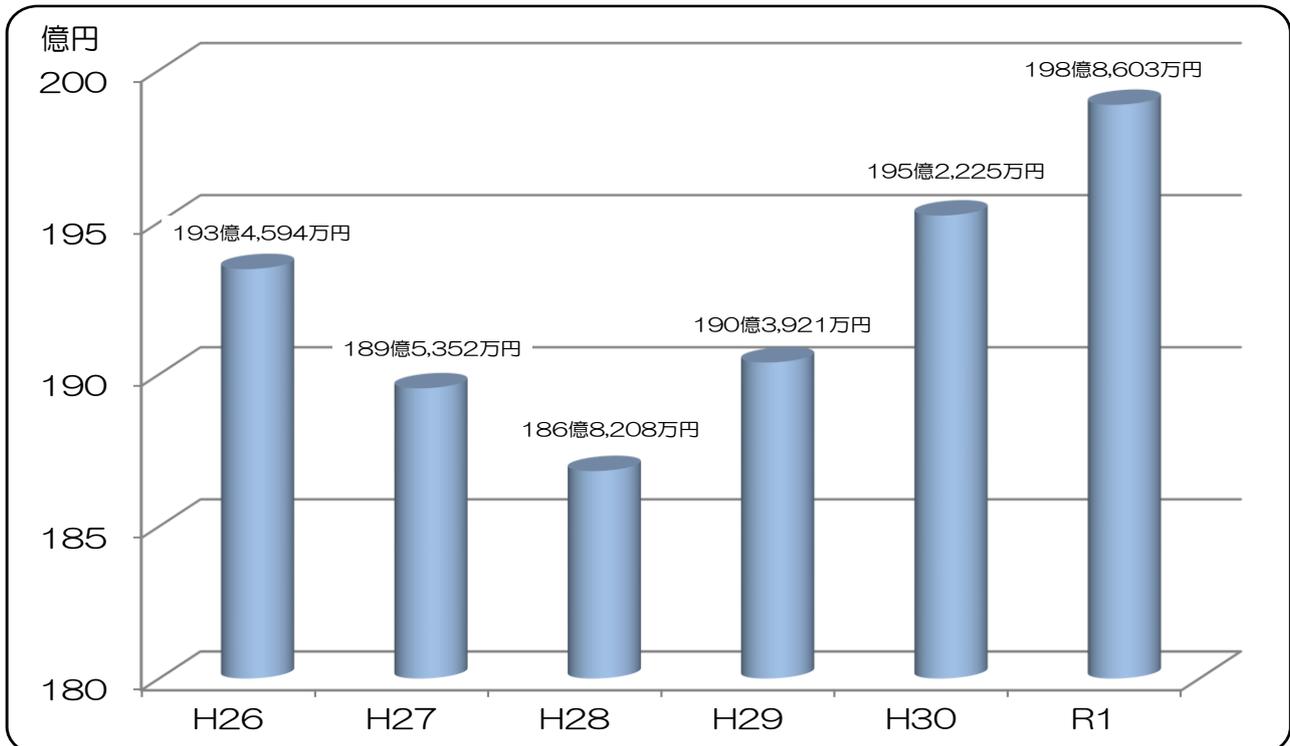


学校や道路などの整備には、たくさんのお金が必要となり、その年の税収だけでこれらの事業を行ってしまうと、他の事業を行うためのお金が不足してしまいます。そのため、借金をしてその年の負担を減らしています。

また、学校や道路は長期間にわたって利用されます。そのため、借金をして整備費を払い、翌年度以降の借金返済に市税を充てることで、将来の世代にも費用の一部を負担していただいています。「借金」には何かと悪いイメージが付きまといますが、市の借金である「地方債」には、年度間・世代間の負担調整という役目もあります。

清瀬市では、令和元年度に一般会計で21億2,900万円の借り入れをして、**18億7,697万円**（うち元金**17億6,522万円**）の返済をしたことで、借金の残高は198億8,603万円になりました。元金の返済額よりも借入額が上回ったため、令和元年度の地方債残高は増加しました。

### 【一般会計の地方債残高の推移】



小中学校の校舎の耐震化などのため、近年の地方債残高は増加傾向にありましたが、未利用地を売却したお金を返済に充てたほか、市債の発行基準を設けるなど、地方債残高の縮減に努めてきました。

しかし、今後は南口児童館建設事業や市内公共施設の整備などに多額のお金が必要となり、その一部を借金によって賄うことが予定されているので、地方債の残高にはこれまで以上に気を配る必要があります。

## 赤字補てんの地方債

原則的に、市は公共施設や社会資本の整備のためにしか借金をすることができないと地方財政法で定められています。しかしながら、特定の条件付きで、不足した一般財源を補うために借金をしてもよいという特例が設けられています。そのなかでも、金額が大きいのが**臨時財政対策債**です。

これは国が普通交付税に必要なお金を確保できなくなったことから、普通交付税の一部を交付せず、代わりに市が借金をすることができるというもので、平成13年度から継続して行われています。

これは赤字補てんの地方債であり、社会問題となっている赤字国債と同じ性質のものです。

臨時財政対策債の借入額の推移

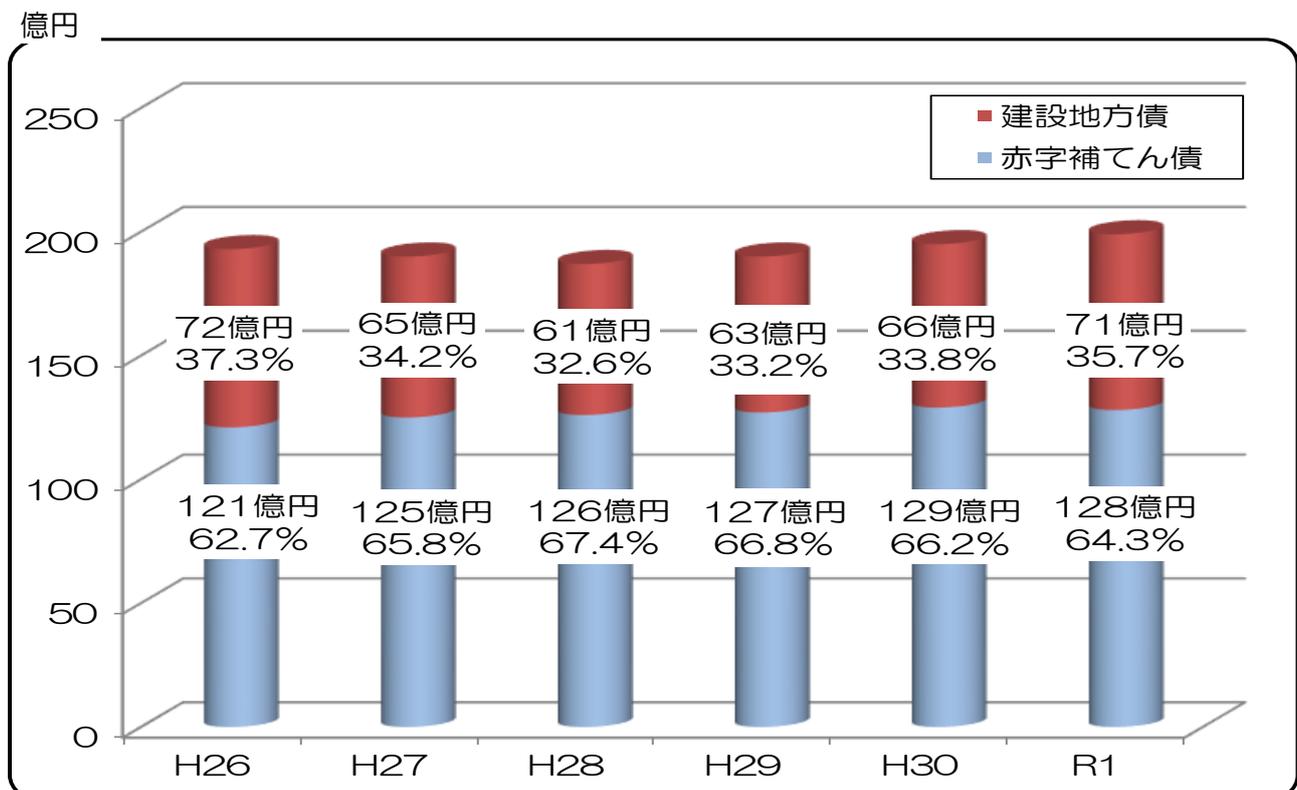
年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
借入額	10億9,700万円	9億1,600万円	10億3,500万円	10億7,000万円	9億800万円

上の表のとおり、毎年多額の臨時財政対策債を借り続けています。

臨時財政対策債などの赤字補てん債は、社会資本の整備につながらない、その場しのぎの借金です。借り入れは抑制するべきではありますが、財政力指数が0.6程度しかない清瀬市では、独自で一般財源を用意することができないため、臨時財政対策債を活用しなければならない状況が続いています。

### 【建設地方債と赤字補てん債（臨時財政対策債を含む）の残高】

地方債残高の内訳をみると、特例措置であるはずの赤字補てん債の残高が建設地方債を上回り、今後もこの状況が続くことが予想されます。臨時財政対策債については、その返済金の全額が翌年度以降の普通交付税の算定で算入されることになっていますが、国の財源不足を地方の借金に転嫁する方法には問題があると清瀬市では考えています。



## 借金返済の負担率

市で行う借金は、公共施設や社会資本の整備に不可欠ですが、その返済金が大きくなりすぎると、財政運営は困難になります。そこで、**実質公債費比率**という指標を使い、収入に対する借金返済額の割合をチェックします。

### 【実質公債費比率の算出方法】

#### 分子

【清瀬市が負担している公債費】  
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

H29年度 5.1億円  
H30年度 4.6億円  
R1年度 5.1億円

実質公債費比率の推移

H27	H28	H29	H30	R1
4.4%	4.2%	4.1%	3.6%	3.5%

= 3.5%  
(3カ年の率の平均)

#### 分母

【清瀬市の収入規模】  
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

H29年度 139.4億円  
H30年度 139.9億円  
R1年度 140.6億円

注意すべき水準：25.0%  
危険水準：35.0%

実質公債費比率は、25%を超えると要注意状態と見なされます。この比率は、3か年の平均で求めます。清瀬市は昨年度に比べ0.1ポイント減少の3.5%となっており、基準内に収まっています。

また、**将来負担比率**という指標を使い、将来負担すべき借金返済額の標準的な収入に対する割合をチェックします。

### 【将来負担比率の算出方法】

#### 分子

【将来の公債費に充てる一般財源】  
33.5億円

将来負担比率の推移

H27	H28	H29	H30	R1
29.4%	23.7%	23.4%	21.9%	23.8%

= 23.8%

#### 分母

【清瀬市の収入規模】  
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

140.6億円

注意すべき水準：350.0%

将来負担比率が350%を超えると要注意状態にあると見なされます。清瀬市は23.8%で基準内に収まっています。なお、将来負担比率は、公共施設整備基金の積み立てなど、将来負担の軽減につながる基金の増加などにより、減少傾向にあります。

## 人件費削減の取組

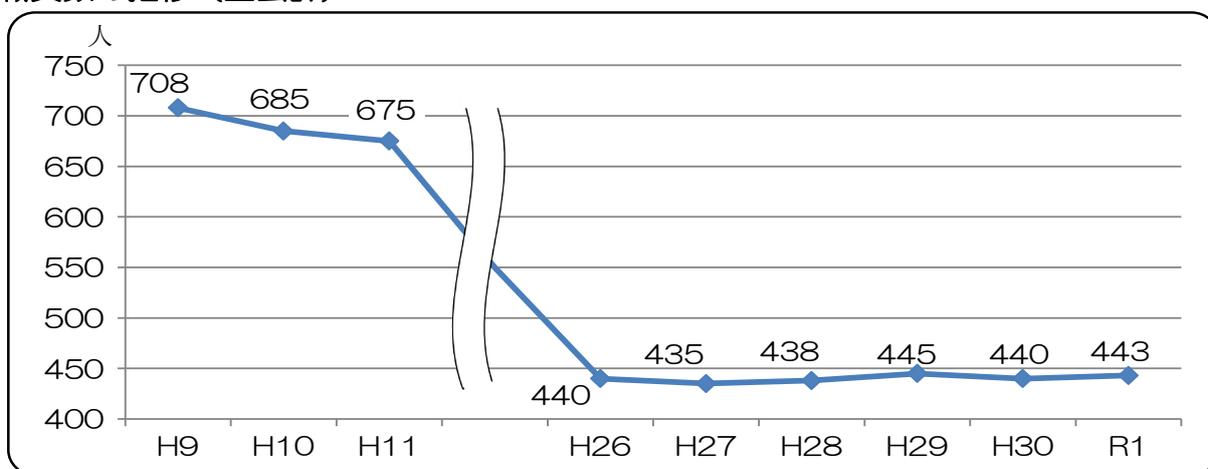


いろいろな財政指標をみてみると清瀬市の財政状況は厳しいようですが、財政状況を改善していくために取り組んでいることはありますか？



バブル崩壊後の厳しい経済状況により、清瀬市は行財政改革に取り組みました。そのひとつが職員数を減らすことであり、人件費の削減を推進してきました。平成9年度には708人の正規職員がいましたが、令和元年度には443人と平成30年と比較すると微増となっていますが、これまでに265人の削減を行いました。

### 職員数の推移（全会計）

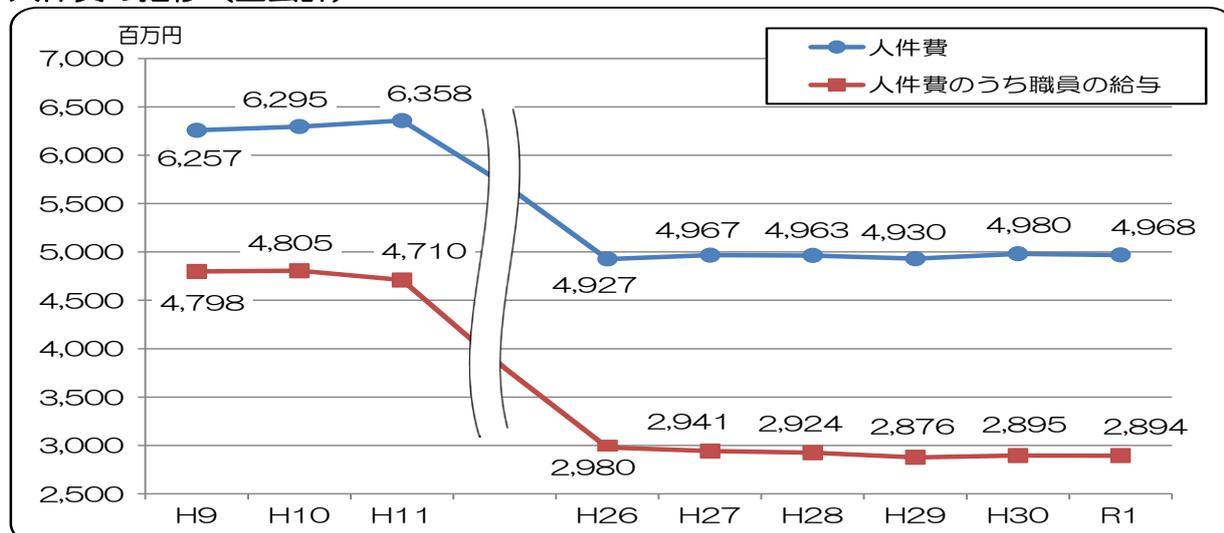


※職員数は各年度4月1日現在です。

※平成27年度からは教育長を除いた数値です。

この取り組みにより職員の給与や、議員の報酬、非常勤職員の報酬などの人件費が一番多かった平成11年度の63億5,800万円に対して、令和元年度は49億6,800万円であり、13億9,000万円削減しています。1年間に支払う職員の給与については、ピークであった平成10年の48億500万円に対して、令和元年度は28億9,400万円であり、19億1,100万円削減しています。

### 人件費の推移（全会計）



『清瀬市のわかりやすい決算書』  
～清瀬市のまちづくり報告書～  
令和2年12月発行

清瀬市企画部財政課財政係

〒204-8511

東京都清瀬市中里 5-842

TEL 042-497-1810（直通）

TEL 042-492-5111（内線 222）